



発行所
聖和福祉会
聖愛園

〒519-2211
三重県多気郡
多気町丹生4701
TEL 0598-49-3115
FAX 0598-49-3783

サニープレイス

〒515-0052
三重県松阪市
山室町2580
TEL 0598-30-5585
FAX 0598-30-5586

ご挨拶

初めに、新型コロナウイルスの治療に命を張って対応していただいた医療機関の皆様、国民の一人として、社会福祉事業を行う者として深く感謝と敬意を表させていただきます。

さて、昨年の年末頃から、武漢で新型コロナウイルスがどうのこうのというニュースが報道されはじめ、最初の頃はそれほど気に留めておりませんでした。ところが、瞬く間に世界中に拡がり、日本も非常事態宣言がなされ、学校の休校や医療崩壊寸前というような事態になるとは夢にも思っておりませんでした。

不安な日々の中で、施設の利用者を守ること、真剣に考えなければならぬ事態に直面することになりました。東南海地震が発生した場合を想定して食料や水、燃料、寝具等を備蓄し、地震が起きればこうする、というイメージはできているつもりですが、新型コロナウイルスの場合は、どう考えてみてもこれなら乗り切れるというイメージはできていません。防護服も手に入りませんので、

その代替として、質の良い雨具や長靴、ゴーグルなどを購入し、また、多床室個室化の補助を受け、部屋の個室化をする取り組みもしていますし、食料の備蓄も増やしましたが、施設内に感染者がでた時に、利用者が入院させてもらえるのか、職員が何人出勤できるのかの一番肝心なところが不明で対策が取れません。

これから、第二波、第三波がきた場合のことを考えると、この地域が、少数の感染者にとどまっているのか、或いは医療崩壊が起きるような状況になっているのか、状況によっても対処の仕方が変わってくると思います。

介護される側も、する側も人命にかかわることなので、私のたどり着いた考えは、「我が法人だけで対応が困難な場合は保健所の指導と指示に従うより方法がない。」ということです。

コロナウイルスによって生活様式を変えていかなければならないことは、今は誰にでも分かります。マスクをすることもできない利用者を守るか、施設の運営の在り方も変えていかなければなりません。保

護者との面会も、地域のイベントへの参加も、買物外出、医療機関への通院も制限されることにならざるを得ません。施設の夏祭りやクリスマス会も方法を変えていかなければならないと思っています。

他県の例によりますと障害者施設の利用者の多数が感染しても入院はしないで医師と看護師の往診で対応したということです。医療の現場は治療をするところで介護や障がい者の生活支援をする場所ではありません。我が施設の利用者の多数は、医療の現場で治療はできても生活支援ができるとは思いません。

新型コロナウイルスは色々な課題を提供してくれました。これからの施設運営は、医療と生活支援を連携させていく仕組みを構築していかなければならないと思います。そのためには、入所施設は絶対必要だと思っております。

障がい者も地域で生活するのが望ましい。このことは否定しませんが、施設を減らすとか無くしていくという考え方には、同調できません。入所施設は絶対必要だということが証明されたと思います。

最後になりますが、この原稿を書いている今は、毎日雨がが続いていますが、「ひだまり」が発刊される頃には大変暑さ厳しい頃になっていると思います。

どうぞ、今年の夏は、新型コロナウイルスと暑さに充分御自愛されまことをお祈り致します。

聖愛園 施設長

戸野 和雄

ご厚情深く御礼
申し上げます

自令和二年二月十九日
至令和二年七月二十七日

ご芳志（ご芳名）（敬称省略）

保護者会・武田スミヨ

（他にも匿名で頂戴しております）

物品寄付（ご芳名）（敬称省略）

東谷順子・高橋幸治・早崎喜代子
南条訓・太田薫

山岡隆・岡本祐真
門前ふみよ・岩城央生
西組・マルハチヒロタ
富士電設備・マルエイ

（他にも匿名で品物を頂戴しております）



変化に対応し暮らしていく

新型コロナウイルスが世界に流行し、私達の生活が変わりました。マスク、手洗い、うがい、手指消毒が当たり前の日常に。

自分の身はもちろんですが、私たちは利用者さんの命を守る使命があります。第一に感染しない、そして、感染させないよう職員が一丸となって私生活に注意を払い過ごしてきました。また、どの場所が危険か、どのようなことに気を付けるべきか毎朝のミーティングで注意の呼びかけが行われ、会議では感染者が出た場合のエリア分け、職員がどのような動きをするか等のシミュレーションが行われ、施設内は緊張が走っていました。

恐怖と不安でメンタルが弱った職員に看護師がメンタルケアを行い気持ちを落ち着かせたり、施設長、サービス管理責任者等、元気がない職員に声を掛け皆で乗り越えようと支えて、我々の心のケアを行ってくれていました。

もし、感染者が発生してしまった場合、食事提供はどうするのか。備蓄の量を増やすとともに、感染予防として使い捨て容器を増やし、個包装のものに変える等、備蓄の見直しを行いました。注文が殺到しており納品に時間は掛かりましたが無事確保することが出来ました。

想定外のことが起きている中でも、冷静になり、常に先を見通して行動すること。職員同士の声掛けで安心して働けること。毎日無事で過ごせることが奇跡だということ。

明日が来ないかもしれないから一日一日を大切に過ごすこと。このウイルスによって気付かされました。多くの感染者、死者を出したこの時期を生きたことを私たちは忘れないでしよう。まだ闘いは終わっていません。これからもう気を引き締め、日々感謝し、人に感謝し乗り越えていきたいと思います。

栄養士 野田 未有

マスク確保に奔走



聖愛園にとってマスクは、園内を清潔に保つ、風邪の流行を抑える等のためには必要不可欠なアイテムです。そのため、新型コロナウイルス感染拡大に伴うマスク不足には、大変翻弄されました。

日本に陽性者が数名しかいなかった一月下旬、施設長と看護師から対策をしなければ大変な事になるという話があり、まず流通が途絶えてしまう可能性が高いマスク確保に奔走しました。いつもお世話になっている業者さんにその日発注をするも、次の日には全てすぐ納品できないと言われてしまい大ピンチ。在庫に余裕はありませんでしたが、今後の事を考えると悠長にしているはずもなく、手分けをして近隣の薬局へ購入可能か電話をしたり、ホームセンターへ買いに走りまわりました。

施設長や副施設長、サービス管理責任者、看護師の手助けもあり、なんとか当分不足しないであろう数を確保する事が出来ました。業者への発注分も納品まで三か月程かかりましたが、無事到着しほっとしました。

手指用消毒アルコール等の衛生用品についても軒並み売り切れ、販売停止となりましたが、早めの対応が功を奏しこちらも最悪の事態を避ける事が出来ました。

また、三知協さんや三重県、国からは物品支援、ふれあい互助会さんと三重県知的障害者生活支援協会さんからは予防対策費の贈呈があり、とても心強かったです。本当にありがとうございます。

一見少し落ち着いたようにも思いますが、ワクチンができるまではまだまだ油断禁物です。またマスク不足に翻弄されないよう、第二波、第三波に備えて動向を注視したいと思います。

事務員 西尾 麻乃

感染症の歴史と新型コロナウイルス

新型コロナウイルスが世界的流行（パンデミック）を起こし私たちの生活を脅かしています。感染症の歴史を振り返ると、人類はたびたび経験した事のない感染症との闘いを繰り返し乗り越えてきました。

感染症の大流行は、人々の考え方や行動様式を変えるきっかけにもなりました。そこで今回は、感染症の歴史とコロナウイルスについて考えてみたいと思います。

紀元前の感染症

古代エジプトのミイラから肺炎、中耳炎、はしか、マラリア、結核などが見つかっています。

天然痘

人類が唯一根絶に成功した感染症です。1万年前から人類の病気として定着したと考えられています。日本では奈良時代に流行し政権を担った藤原4兄弟が死亡、戦国武将の伊達政宗が片目を失った原因も幼少期に患った天然痘だと言われています。明治時代にも万単位で亡くなる大流行が3回ありました。20世紀の死者は3億人にのぼりますが、ワクチンを使った世界保健機関の活動が成功し、1980年に根絶を宣言しました。

スペイン風邪

今から百年前、1918年～1920年に世界で流行したインフルエンザで20世紀最悪の世界的大流行（パンデミック）と言われています。世界人口の25%～30%が感染し、死者は2000万人から4000万人との説があります。第一次世界大戦の最中で、各国の軍隊で感染が流行したため、戦争終結を早める要因になったとも言われています。

日本では流行の波が3度起き、国民の4割以上が感染し40万人前後が亡くなりました。このスペイン風邪の流行傾向が、新型コロナウイルス感染症とよく似ていると言われて警戒されています。

新型インフルエンザ

日本における2009年の新型インフルエンザの感染は、成田空港検疫でカナダの交流事業から帰国した高校生ら3人において初めて確認されました。その後、兵庫県や大阪府の高校生を中心に急速に感染が拡大し、日本では203人が死亡したと発表されています。死者の多くは、気管支喘息や糖尿病などの基礎疾患を持っている人達でした。

また基礎疾患がない10代の死亡例も多くあり警戒されていましたが、猛威を振るうことはありませんでした。

ペスト（黒死病）

東ローマ帝国などで流行したとの記録が残り、十四世紀には世界的流行で一億人が死亡したと言われていいます。人口の三分の一が死亡した欧州では、生や死に対する価値観が揺らぎ、新しい学問や芸術が生まれ宗教改革にもつながったと言われています。

コレラ

インドの風土病でしたが、植民地にした英国から世界に広がり、各地でたびたび大流行しました。日本でも、明治の開国前後に流行し、江戸だけで二十六万人が死亡したとの記録が残っています。

コレラは汚れた飲み水から流行したため、公衆衛生の重要性への認識が世界で広まり、上下水道の整備が進みました。このため、コレラは「衛生の母」とも呼ばれています。

重症急性呼吸器症候群（サース）

2002年～2003年、香港を中心に流行し、29カ国で8000人以上が感染、約800人が亡くなりました。発症すれば重症化する事から隔離する事で封じ込めに成功。爆発的な感染拡大には至りませんでした。

新型コロナウイルス

昨年12月以降、武漢市などで検出されたのが新型コロナウイルスです。日本国内でも、武漢市への渡航者や武漢市から日本への旅行者で新型コロナウイルスが検出されたことから始まりました。その後クルーズ船、屋形船、ライブハウス、スポーツジム、病院の院内感染、介護施設、障害者施設などで集団感染（クラスター）が発生しました。

世界中に新型コロナが急速に広まったのは、グローバル化が進み飛行機などによる移動が増え、国境を越えた行き来が盛んになった事も大きな要因です。感染症の歴史からみても、感染症の流行、拡大には、それぞれの時代背景が影響している事が分かります。また、日本赤十字社によると、新型コロナウイルス感染は「3つの感染症」とも言われています。

3つの感染症 その①「病気」

第一の感染症は、コロナウイルスによる「病気」そのものです。これを防ぐには、一人一人が感染予防対策の徹底と自己体力をつける事が重要です。「手洗い」「マスク、咳エチケット」「3密を避ける」「栄養をとる」「免疫力を高める」「十分に睡眠をとる」などを励行していきましょう。

3つの感染症 その②「不安と恐れ」

第二の感染症は、「不安と恐れ」です。このウイルスの特効薬やワクチンはまだ開発されていません。わからないことが多い為、私達は強い不安を感じ振りまわされてしまいます。そのため、気付く力、聴く力、自分を支える力を弱めます。これを防ぐには、ウイルスに関する悪い情報ばかりに目を向けず、いつもの生活習慣を保ち、今の状況だから出来ることに取り組むようにしましょう。そして、3密を避けながら人との交流を続けるなど一人で悩むことがないようにし、いつも冷静な判断が出来る力を高めるようにしましょう。

3つの感染症 その③「嫌悪・偏見・差別」

第三の感染症は、「嫌悪、偏見、差別」です。不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激します。そのため、ウイルス感染に関わる人や対象を日常生活から遠ざけ、差別する事で、人と人との信頼関係が壊されてしまいます。これを防ぐために、誰もがコロナウイルスに感染する可能性がある事を念頭に置き、差別的な言動に同調しないようにしましょう。高齢者、障害のある人、小さな子供のいる家庭、持病のある人とその家族、自宅待機している人、医療従事者、社会を支えている人などがそれぞれの場所で感染を拡大しないように頑張っています。この事態に対応しているすべての方々をねぎらい、敬意を払うようにし、心の距離を縮めるようにしましょう。

最後になりますが、新型コロナウイルスとの戦いは長期戦になるかもしれません。歴史から見るように第2波、第3波が発生する可能性が充分あります。施設利用者、自分自身、御家族や大切な人が新型コロナウイルスに感染しないように「新しい生活様式（別紙）」を実践し感染予防を徹底していきましょう。

看護師 木下 明美



サニープレイス便り



サニープレイスは、平成二十六年五月に開所し六年が経ったところですが。今でも建物は、木の香りがしており室内は広々としていて利用者の皆さん、職員共に落ち着いた空間で過ごすことができているのではないかと思います。

開所時より月日が続っていますが、この数年で更に毎日が賑やかになりました。活動の内容は多少変動していることはありますが、サニープレイスの理念は変わらず続いています。利用される人数も年々増えておりますが、それでも一人一人の想いを聞きながら、活動の中で好きなことや得意なことに取り組み、苦手なことも頑張つて達成する喜びを感じていただけるようにし、周りの人と協力しながらみんなを取り組むこと等、楽しいこともたくさんあります。時には頑張つていただくこともあります。それぞれに、できることや得意・不得意が違うのは当たり前です。職員はそれを個々の利用者さんに合わせて、それぞれにあった声のかけ方をしたり一緒に取り組んでいき、見守りながら毎日必死に支援しています。たくさんさんの個性あふれる利用者さんと職員がおり、いろんな考えがあり様々な支援方法を見出してきた結果、現在のサニープレイスでの支援があり利用者の皆さんが毎日を笑顔で通所していただいているのだと感じております。

コロナウイルス対策として、通所前・出勤前の検温の実施、手洗い、アルコール消毒の徹底、換気や密にならないような空間づくり等のできる限りの対策を続けています。外出活動の自粛をしたり、活動内容の変更をしながらも柔軟に対応をとつてまいりました。今後も状況をみながら、対策をとりつつ日々の支援に励んでいく次第です。利用者の皆さん、保護者の皆さんにはご協力いただくこともあるかと思いますが、皆さんの毎日が有意義なものとなるようにしていきたいと思っております。

サニープレイスサービス管理責任者 野呂 佳那子

サニープレイスでは毎日同じことをするのはなく、陶芸やアート活動、PR活動、体力作り等日によってさまざまな取り組みを行います。自分の作品を作つて松阪市展や障がい者芸術文化祭に出展しているアート活動、サニープレイスの機関紙を全員で手作りするPR活動、ウォーキングやバスケットボール等に加え夏季にはプール活動も行っている体力作りなど。主たる活動であります陶芸では箸置き（パーツ作りや組み立て等）、マグネット作り、ようじ立て作り等、多岐にわたり毎回一生懸命取り組んで頂いています。

そんな中「しつかり活動し、しつかりと楽しむ」をモットーとしているサニープレイスでは、希望を聞きそれに沿う形で小グループでの外出活動を毎月一回程度行う予定にしました（全員で行く外出も年三回ほど計画！）楽しみが広がる中、本年はコロナウイルスが蔓延したため活動を中止や変更せざるを得なくなりました。春先は密にならないように花見の場所を変更したり、四月に予定していた京都などへの外出を見合わせたり、一時はウォーキングも見合わせました。非常事態宣言の解除を受けた後も密にならない環境作りを心掛け、ウォーキングは小グループに分かれて取り組むようにしました。また外出活動は、県内を中心に3密にならない場所を現在検討しています。

今後も3密には注意していきませんが、「楽しみ」となるような様々なイベントを企画しています。夏季には全員で行うスモール飯高を利用してのバーベキューと川遊びが待っています。スモール飯高でのイベントは、たくさん食べてたくさん水に浸かって遊ぶ大人気企画です！秋はブドウ狩りや釣り体験などを考えています。検温の実施や密にならないよう配慮をしたりマスク着用する等、今までとは違い配慮することは多いですが、季節感があり楽しさを感じていただけるように企画しています。年末年始は世間の状態がどうなっているのかわかりませんが、皆さんと一緒に楽しめるように考えていますので、また報告できればと思います。

最後に、サニープレイスでは皆さんの生活が豊かになるよう、メリハリをつけて活動や外出イベント等予定しています。皆さんに色々経験して頂き豊かな毎日を過ごせるよう、サニープレイスの全員で毎日を盛り上げていきたいと思ひます。

サニープレイス支援員 鎌倉 喜昭



聖愛園夏祭り

今回で二十二回目を迎える聖愛園の夏祭りが七月十二日に無事に開催されました。

新型コロナウイルスの影響で行事の開催自体危ぶまれましたが、直前まで検討した結果、今年は例年より規模を縮小して開催することになりました。

具体的には感染症のリスクを少しでも防ぐためボランティアさんなどの外部の方を呼ばない、利用者さんと保護者の方々に距離を取っていた、などです。

せっかくの機会に直接触れ合うことが出来ず利用者さんにも保護者の方々にもさみしい思いをさせてしまい申し訳ありませんでしたが、みなさまの健康を第一に考えての措置でした。ご理解いただきありがとうございます。

最後にコロナウイルスとの付き合いは暫く続きそうです。感染症のリスクを考え今は多くは出来ませんが、このコロナ禍が過ぎた後はまたみなさんで楽しく過ごせるイベントを開催したいと思っています。ご参加いただきました保護者の皆様、本当にありがとうございました。

生活支援員 松本 猛



縮小しての開催でしたが、利用者さん・職員による演奏やダンスなども披露して頂きました。皆さん拍手で盛り上げて下さいました☆



機関紙ひだまり第五十二号を発行させていただきました。ご一読いただければ幸いです。宜しければ聖愛園とサニープレイスのブログもご覧下さい。

<http://seaien.exblog.jp/>
<http://seiwafukushikai.com/blog/>

編集 聖愛園

田所 有須

